

都市政策・地域経済ワークショップⅡ 第3回講義録

【テーマ】自然な農と食を活かした地域活性化

【講師】内閣官房地域活性化伝道師・総務省地域力創造アドバイザー 金丸弘美氏

【日時】2022年10月28日（金）18：30～21：20

【場所】梅田サテライト文化交流センター

➤ 講演概要

現在国では、地域にあるさまざまな資源や活動などを組み合わせて予算を組んで地域活性化に結び付ける支援をしている。近年の観光は個人旅行が増加し、今までのように神社仏閣や名所のある地域に団体で訪れていた観光とは違ってきている。現在イタリアでは、世界中の若者にイタリア料理を教えるという国家戦略を実施している。日本だけでもイタリア料理人は5000人存在する。日本でも農業を教育する取組がある。日本における自然な食と農を活かした地域活性化についての事例を紹介していただいた。

➤ 東京都練馬区の事例

- ・農家が農地を開放し農家自身が一般の人に野菜づくりを教える「農業塾」を始めた。農業体験塾発祥の地。18農園1963区画。東京都内では100か所ある。コロナ禍で急上昇中。
- ・農家がレクチャー、種は必要な分を配布。
- ・手ぶらで農業、道具や肥料・種は農家で用意。
- ・手取足取り指導。
- ・農福連携も実施している。

➤ 全国45道府県への移住支援相談窓口がある。

- ・東京・有楽町ふるさと回帰支援センター 移住・定住相談に、2022年には5万人来訪した。20代～30代の希望者が多い。

➤ 長野県大村市

- ・新規就農2020年は23名。2016年から5年間で90名。
- ・45歳未満63名。45歳以上27名。20代も多い。県外からは6名就農。
- ・大村市は1970年から人口が増え続けている全国でも数少ない自治体。
- ・成果に繋がっているのかインターンシップ制度。2019年から始まった。
- ・受け入れは複合施設。
- ・「おおむら夢ファームシュシュ」農家で作ったものをジェラードやその他の加工品にして販売。
- ・大村市との連携事業。グリーンツーリズム協議会に委託。婚活パーティー、農業体験、農

家民泊、地域のケーブル TV で各自の農園の取り組みを紹介。

➤ 愛知県今治市

- ・ 5 期生で 20 名が就農。
- ・ 市と県の連携事業。中心は JA おちいまばり農作物直売所「さいさいきて屋」。
- ・ 開設は 2007 年。農家 1500 軒が登録。売上 26 億円。日に 2500 人のお客様が訪れる。
- ・ 米、野菜、肉類、果物、花、総菜、弁当、菓子類、漁業組合連携魚介類など日常の生鮮が全て揃う。カフェ、食堂、体験教室もある。
- ・ 新規就労研修は 2017 年から。
- ・ 大阪、東京の『農業人フェア』愛知県の新規就労希望者に窓口で声を掛けている。
- ・ 研修希望者は 1 泊 2 日、2 泊 3 日、あるいは 1 週間。現地で研修。費用は各自もち。宿泊は民宿、ゲストハウス、市の保養施設 1 泊 3500 円位。収穫や剪定など時期にやれることを体験できる。

➤ 脱サラで富山県に移住「阪口創作氏」

- ・ 農業を様々に連携させる。保育園と連携、外国人への農業体験・日本文化を売るなど実施。
- ・ 古民家を改装してゲストハウスに。
- ・ 子供たちの体験イベント開催。

➤ 山口県周防大島「瀬戸内ジャムズガーデン」

- ・ 人口 1 万 7000 人。高齢化率 51%。9550 世帯。(1970 年の人口は 3 万 7631 人)
- ・ 10 年間で観光人口が 80 万人から 100 万人に増加。
- ・ 2013 年から移住・定住の為のツアーを開催。
- ・ 移住は 50 人を超えた。
- ・ 広域連携で全体に経済を回す。
- ・ パリでコンフィチュールと出会いヒントを得る。
- ・ 地元農家と連携し 80 種類もの無添加ジャムを製造。その他にも商品開発を行い島でしか味わえないサービスを提供している。
- ・ 1 万 7 千人の人口の島に 7 万人の観光客が訪れる。

➤ アグリツーリズム

- ・ イタリアでは、1985 年からスタートしたアグリツーリズム（農業観光）がある。農家民泊があり、地域と連携し町全体を楽しんで頂く仕組みになっている。
- 同様の取り組みを日本国内で、テーブル・ア・クロス gochi 荘「岡田奈穂子氏」が各地で成功させている。

➤ 様々な事例

- ・富山県立山町「阪口創作氏」
- ・福井県若狭町「かみなか農楽舎」
- ・NPO 九州エコファーマーズセンター
- ・石川県白山市「米ではなく食べ方を売る米生産法人（株）六星」
- ・香川県木田郡三木町井戸地区「田んぼのなかに賑わいマルシェが生まれた」
- ・島根県雲南市 木次乳業「パスチャライズ（低温殺菌牛乳）」と乳製品

➤ 最後に

- ・世界情勢により食料難になることも考えられるため、国内で生産する農業が必要となる。

<講師紹介>

金丸弘美 内閣官房地域活性化伝道師・総務省地域力創造アドバイザー
一般財団法人地域活性化センター シニアフェロー
(食環境ジャーナリスト・食総合プロデューサー)

◎ホームページ <http://www.banraisya.co.jp/kanamaru/home/index.php>

●「エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク」でインタビュー特集
<https://enekei.jp/mmz/mailmagavol205.html>

●「食育で育む未来の町づくり」YouTube 配信中
<https://www.youtube.com/watch?v=-ztpU9TX8J8>

●「金丸弘美のニッポンはおいしい！」WEB 連載配信中
<http://www.banraisya.co.jp/kanamaru/yotei/yoteidetail.php?&no=768&a=2017>

(報告者 阪本菜津代)